

就職特集

専大オリジナル—

人間力養成講座

「学生時代に何をやり遂げたか」が問われる就職活動。就職課では「個人の資質」を高めるために、さまざまな講座を展開している。その中から専大オリジナルの講座を紹介しよう。

Brush Up ゼミ

「熱く語れる『4年間』を」をテーマにしたキャリア 支援プログラム「WAKUWAKUときめき専修21Brush UPゼミナール」。「魅力ある生き方・格好いい生き方」などのテーマで、ディスカッションとプレゼンテーションの2回完結方式で行う。「専門」「教養」に続く、『第3のゼミ』ともいえるものだ。今年は1～3年次までの30人が参加。高橋健志さん(商3)は「学部・学年を超えて討論することで、『聞く力』『まとめる力』が身についたと感じています。専門ゼミにも役立っていますし、自信を持って就職活動に臨めそうです」と2カ月間の効果を実感している。「昨年までは授業と重なって出られなかった。もっと早く参加したかった」とも話してくれた。



グループごとに工夫を凝らしたプレゼンテーション

取材日はグループごとに「輝くために大学生活をどう送ればいいのか」を発表した後、各人が「専修大学でこれをやり遂げる」と「自分宣言」。講師の芝原脩次氏は『「気楽に真面目な話をする」ことが照れくさかったり、恥ずかしかったりするだろうが、学生時代だから出来ることでもある。価値観が多様化する現代だからこそ、しっかりと『基軸』を持つ。ゴールを設定し、成功をイメージすることで『ありたい自分』に近づくことが出来る』と締めくくった。

マスコミ講座

採用の段階で企業が最も重要視するのは、「コミュニケーション能力」だと言われている。その力をアップさせるのが、3年次生対象の「マスコミ講座」だ。今年は215人の受講生が、全20回の講座に取り組んでいる。

—昨年までは3年次の10月に講座をスタートさせていたが昨年、前期からの開講にリニューアル。マスコミ業界を知り尽くし、就職支援で定評のある、高田塾(表現開発研究センター)高田城氏の指導は「書く・話す」ことに重点を置いている。昨年の受講生から、TBSテレビなどへの就職決定者を輩出した。



「エントリーシート」を書く実習

第9回の講座は「エントリーシートの書き方」の講義と実習。「マスコミ業界でも業種により求められるものは違う。まずは目指す 企業の特徴を知ること。数千枚のエントリーシートから『目立たせる』には、工夫が必要だ。大きな文字で迫力ある書き方で内定を勝ち取った学生もいる」と実践的な攻略方法を指南。自己PRや作文など表現力のほか、面接や時事問題への取り組み方など、一般企業に向けての対策も学ぶことが出来、他大学の学生との自主勉強会などで人脈も広がる。

同講座の来年度の募集は4月。要チェックの講座だ。

就職特集

育友会就職懇談会

父母にも大きな関心

—率直な質問も多く—

就職問題は父母にとっても最大の関心事であり、育友会では、毎年各地で懇談会を実施し、サポートを行っている。

今年も静岡、山梨に続き、7月3日、東京千代田区のホテルグランドパレスで就職懇談会が開かれ、会員ら260人が出席した(岡山は7/10開催)。

採用側から、(株)エトワール海渡・取締役人事部長の有賀俊文氏が「就職状況について」と題し、企業が求める人材像を講演。活動体験談では、経済学部4年の久保陽さんが、内定に至るまでの活動内容を具体的なエピソードを交えて語った。

前田正志就職部長は「正面から向き合ってお子さんと話をすることが、自己分析の手助けになります。親の思いを押しつけ過ぎることなく、社会人の先輩として、アドバイスしてあげてください」と、親としての「就職」への関わり方を示した。

参加者からは「就職後の早期離職はなぜ起こるのか」といった質問が数多く出され、関心の高さをうかがわせた。



厳しい就職戦線を反映して多くの育友会員が参加した(壇上は有賀氏)



講演したエトワール海渡の有賀氏



体験を語る経済学部4年の久保さん



親としての関わり方を語る前田就職部長